

自立活動（言語障害教育）

令和3年度特別支援学校教員資格認定試験問題（第2次）

自立活動に関する科目（Ⅱ）

（問1～問6 全6問）

時間9：30～11：10（100分）

（受験上の注意）

- 1 監督者の「始め」の合図があるまで、問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題冊子は、表紙を除いて1ページです。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、落丁・乱丁及び解答用紙の汚れに気づいた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答は、論述式です。
- 4 解答用紙は、問別に9枚あります。はずしたクリップは再度使用するので、なくさないようにしてください。
別に下書き用紙が1枚あります。
全ての用紙に、
 - ① 受験番号欄
受験番号を記入してください。
 - ② 氏名欄
氏名を記入してください。
- 5 解答は、問と同じ番号の解答用紙に記入してください。
解答用紙のおもて面に書ききれない場合は、うら面に記入してください。
解答用紙の※欄は採点欄です。何も記入しないでください。
筆記用具は、HBの黒鉛筆を使用してください。
- 6 この試験の解答時間は、「始め」の合図があってから、100分です。
- 7 当該試験開始から終了までは、退出できません。ただし、用便や発病等やむを得ない場合には挙手をし、監督者の指示に従ってください。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、解答を直ちにやめ、解答用紙を上から問1→2→3→4→5→6→下書き用紙の順に並べ、左上をクリップで綴じ、回収されるまで、着席したままで待っていてください。
- 9 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問1 語彙知識が不足している児童に行うメタ言語的アプローチ（メタ言語的活動）について、どのような方法か説明して、具体的な例を四つ挙げなさい。

問2 「さかな」を [takana] と発音する誤りと、 [satana] と発音する誤りのそれぞれについて、構音点（構音位置・調音点）と構音方法（調音様式）の双方の観点から説明しなさい。

問3 日本語の発達性読み書き障害（発達性ディスレクシア）の背景要因となる認知機能を二つ取り上げて、その認知機能を説明し、かつ、その評価方法を述べなさい。

問4 摂食嚥下障害のある児の経口摂取を観察する際、着目すべき点を述べなさい。先行期、口腔準備期、口腔期（口腔送り込み期）、咽頭期の四つのうち三つの摂食過程を選んで、それぞれ具体的に挙げること。

問5 通級による指導で各教科（国語、算数・数学等）の内容を取り扱う際の留意点を述べなさい。

問6 次の用語のうちから四つ選び、それぞれの意味を説明しなさい。

- (1) 拡大（補助）・代替コミュニケーション（AAC）
- (2) 早口言語症
- (3) オーラルディアドコキネシス課題
- (4) マカトン・サイン
- (5) スクールクラスター
- (6) 吃音の予期不安